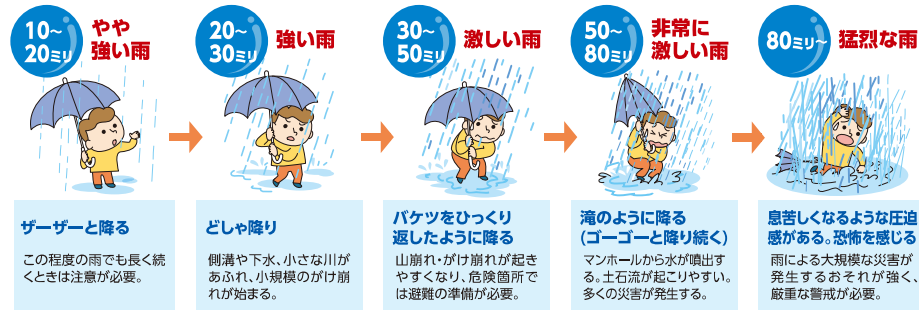


風水害

雨の降り方と災害について

雨の降り方から被害の予想ができます。雨の降り方に注意し、警報や避難情報が出る前でも、危険と判断すれば、避難などの準備をしたり自主的に避難することも大切です。[雨量は1時間雨量(ミリ)]



風の強さと吹き方 風速の単位m/sは、1秒間に進む距離(m)



洪水に関する避難情報の発令について

市では、市域を流れる河川について、水位が著しく上昇し、洪水発生危険性が高まると、避難が必要な浸水の想定区域を含む下記の地域を対象に避難情報を発令いたします。

大和川

危険度に応じ、下記のとおり市域の発令対象区域を2つのブロックに分けて段階的に避難情報を発令いたします。

ブロック①
対象地域
高井田、青谷、国分本町1~4丁目、国分市場、田辺1丁目、国分西、片山町、玉手町、円明町、石川町

ブロック②
対象地域
本郷、大正、古町、今町、上市、清州、堂島町、河原町、法善寺、平野1丁目、大塚、太平寺、安堂町

*水位はいずれも柏原水位観測所での数値

石川(エリア:右岸)

対象地域
片山町
玉手町
円明町
石川町

洪水予報の基準水位

*大和川や石川の水位が増え、洪水のおそれがあるとき、水位の状況により気象庁が国や大阪府と共同で水防活動や皆様方の避難行動の参考となるように洪水の予報を行っています。



気象情報の種類と発表基準

注意報	災害が起こるおそれのあるときに注意を呼びかけて行う予報
警報	重大な災害が起こるおそれのあるときに警戒を呼びかけて行う予報
特別警報	警報発表基準をはるかに超える大雨等が予想され、重大な災害の起こるおそれが著しく高まっている場合

特別警報が発表されたら「ただちに、命を守るための行動をとる」

氾濫の種類

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「洪水」と、街中の排水が間に合わず、排水路などからあふれ出す「内水」の2タイプがあります。

洪水

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える、あるいは堤防が決壊して川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



内水

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる水害。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



大雨の際の危険箇所

地下道(アンダーパス)

鉄道の地下など路面が低くなっているところは、水がたまる恐れがあるので、車で入らないようにしましょう。浸水・冠水の危険を感じたら、速やかに車を高台に移動させましょう。



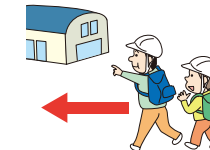
車両の場合、約30cm程度の冠水で走行困難になる場合があります。

浸水時の水平避難と垂直避難

風水害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。

そのような場合は、避難所への移動(水平避難)だけでなく、近隣ビルの高層階や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行い救助を待つという判断も必要です。

避難所への避難(水平避難)



高所への避難(垂直避難)



自動車による避難のリスク

自動車が冠水した道路を走行する場合、水深が車両の床面を超えると、エンジン、電気装置等に不具合が発生するおそれがあります。また、水深がドアの高さの半分を超えると、ドアを内側からほぼ開けられなくなります。

